

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)は24日、「前立腺がん」の骨転移のある去勢抵抗性前立腺がん(CRPC)の治療に有効な放射性医薬品「ゾーフィゴ」(バイエルン薬品発売)の使用を始めた。同病院によると、ゾーフィゴは今月に保険適応となったばかりで、道内では同病院が初導入。患者の生活の質(QOL)向上にもつな

前立腺がん最新治療

がるという。

前立腺がんは国内でも増加しており、国立がん研究センターが発表した患者数(2011年現在)は約7万8700人。男性のがん部位別患者数は胃に続く第2位。腫瘍マーカー(血中PSA)で早期発見しやすいが、骨転移しやすい特徴もあるという。

また、前立腺がんは「男

製鉄病院が道内初導入

性ホルモンの分泌を抑えると勢いを失う性質がある(立木泌尿器科科長)ため、手術で睾丸を摘出(除睾術)したり、除睾術と同じ効果が得られる薬を注射するなど、がんの増殖を抑制する内分泌治療も一般的に行われる。

ただ、この内分泌治療は「続けるうちに効かなくなる」ことが一つの課



放射性医薬品・ゾーフィゴの治療を見守る 立木泌尿器科科長(右)＝イメージ

題」でもあり、数年後には、CRPCや骨転移も見られるなど、生命予後やQOLに影響を及ぼす事例も多くなっていた。ゾーフィゴは、アルファ線を放出する放射性同位元素で主に構成されており、注射で体内

に注入すると骨に転移したがん病巣を標的にして効果を発揮するという。すでに、ヨーロッパでは「CRPCに対する第一選択薬」と位置付けられており、国内でも今月に保険適応された。同病院では24日、70代の男性患者の治療に用いた。立木科長は「前立腺がん患者さんへの治療の新たな選択肢。(CRPCや骨転移などの病状に合わせて)治療の選択肢も広がる」と話している。

(松岡秀直)